

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

2~4頁 司教書簡「ブロック訪問をふりかえって」

6~7頁 教会学校リーダー研修会

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。

TEL・FAX 0794-31-8601



(写真は、奉納の
パンを粘土で作っ
た体験のものです。
本文8頁)

人生の中でわたしたちは、完全を自指して走って勝ちを得ることを決してないのであり、わたしたちは破れたままで愛されていることを祝いつつ、共に希望のうちに歩む。お互い助け合いながら信頼のうちに成長し、感謝しつつ生き、ゆるすことを学び、他者に心を開き、喜んで受け容れながら、平和と希望をわたしたちの世界につくり出そうと努めるのです。

このようにしてわたしたちは共同体に根をおろすのです。

(ジャン・パニエ)

7
2003

福音を生きる(典礼を通して)

共同体は完全体ではなく、また完全体はあり得ないもの。これは人間の条件なのだ。しかも人が完全に達していないことはよいことなのだ。わたしたちは自分が不完全なものを嘆いてはならない。欠けがあるからといって裁かれたりはないもの。わたしたちの神は、わたしたちの足が不自由で、見る力も半分しかないことをさまざま面でよくご存知なのだから。

はじめに

二〇〇一年四月から京都教区では、全小教区五十七が十四ブロックの編成で共同宣教司牧を行うようになり、二〇〇二年初めて「ブロックの司教訪問」を実施いたしました。その訪問の総評のために、地区集会を二〇〇三年二月から三月にかけて、五地区ごとに開催いたしました。各ブロックの共同宣教司牧の歩みについての評価、および地区が今後取り組むべき課題については、その席でお話いたしました。その報告は、それぞれのブロックでお聞きのことと思います。また、ブロックごとの評価は席上、プリントで配布いたしましたのでご参考になさってください。この書簡では、十四ブロック全体の共同宣教司牧の歩みを総括して、教区の皆さんと分かち合いたいことをまとめてみました。

司教書簡

「1001年共同宣教司牧ブロック 司教訪問をふりかえって」

—1003年6月1日 主の昇天

京都司教 パウロ大塚喜直

① 信徒の意欲
おおむね訪問日のミサへの参加者も多く、司祭・修道者・信徒共に共同宣教司牧への意欲が感じられました。しかし一部のブロックにおいては信徒数に比べて参加者が少なく、共同宣教司牧に対する関心や学習意欲に乏しい地域があつたのも事実です。

京都司教 パウロ大塚喜直

② 共同宣教司牧の下地
全てのブロックでは、それぞれ種々の事情や問題を抱えていても、着実に共同宣教司牧の下地は出来つつあると実感しました。司教訪問の準備や、当日の司教講話を通して、共同宣教司牧が「教区的選び」であること、また共同宣教司牧のために意識改革が必要であるということも深く理解していただけたと思います。

京都司教 パウロ大塚喜直

③ 聖書を基にした祈りと学び
信仰改革としての共同宣教司牧のために、聖書を基にした祈りや学びの必要性があらためて意識され、また実行されている事例

は、嬉しく思いました。

④福音宣教と地域の特性

教会活動において、以前よりも地域の特性を意識して、それを生かしたり、対応する姿勢が強くなってきたと感じました。たとえば、教会の地域行事への参加、他宗教の人々と協力、教会施設の地域活動への開放、福祉施設や障害者グループへのボランティア活動、滞日外国人との交流と連帯など、大いに評価できます。

⑤ 教会運営に係わる人の範囲

共同宣教司牧をお互いに認識するための話し合いは、役員会規模の話し合いから、より広範囲な各信徒グループの話し合いで、様々な段階がありました。

⑥ 司祭の関与の差

普段の共同宣教司牧のための司祭

同士、および司祭と信徒の話し合いについても、地域によってかなりの差がみうけられました。現状では司祭同士の協力関係と役割分担と相互理解が不十分な地域も存在し、司祭同士の相互研鑽と信頼関係の再認識も必要であると思います。

⑦ 共同宣教司牧の歩みを測る方法論

司教訪問の準備として、アンケートを集約する方法と、分かち合いの材料を設定しそれをもとに話し合っていく方法がありました。どちらも「共同宣教司牧の歩みを評価する」というテーマに基づいているかどうかが重要なのですが、アンケートは問い合わせ方や回答数の少なさ、その分析に問題があり、分かち合いはテーマ・本質からずれていくことに問題があつたように思います。

⑧ ブロックでの信徒養成の場

ブロックによっては信徒養成の場が十分に整っていない地域があります。それは教会行事に比重が置かれて、信徒が学びや福音教に対する意識とゆとりが持てないよう見えます。福音宣教

する共同体になるための力を注ぐために、この現状を識別し、今後教会の活動を計画するときに、優先課題を選ぶ必要があります。

2・学んだ点

①共同宣教司牧的歩みの諸段階

準備資料において、共同宣教司牧には段階が存在することが理解できました。それは(1)ブロックで合同行事を行う段階、(2)ブロック担当司祭・役員信徒の相互交流の段階、(3)小教区の垣根を越えたブロックとしての協力関係の段階、(4)ブロック全体とその構成員が福音宣教するための指針と方法論を持つ段階、そして、(5)各自の福音宣教の実践が共同体において評価・識別できる段階です。これらが少しずつでも重層して進行していくことが目標です。

②共同宣教司牧「推進」の意味について

共同宣教司牧を「推進する」ということは何を指しているのかについて、以下の二つを区別して話すことが必要です。それは簡潔に言うと、「意思決定」と「教会活動」の二つの面で「共同宣教司牧的な」動きが始まり、広がり、活発化することです。

共同宣教司牧の推進の第一番目は、「意思決定」の面です。それは、ブロックおよび各小教区内で、教会運営や活動を反省し改良していく時、その共同体の意思決定のプロセスを司祭と信徒と共に責任をもって、かつ相互協力の精神と形態のもとに「共有する」ことです。

もう一つは、共同宣教司牧を「教会活動」の面で推進することです。それは、信徒一人ひとりが福音宣教者の自覚をもって、積極的に福音宣教につながる行動を活発にすることです。それにも、いろいろなレベルがあります。個人の



(京都南部地区集会)

レベル（教会内の活動への参加、教会外一般社会での活動への参加）。小グループのレベル（教会内の有志のボランティアなど）。教会の「活動部会」（典礼部、広報部、教育部、など）。小教区全体での活動（独自の企画、また他の教会、団体との協賛型）。それらが、ブロック、地区、教区のレベル、そして日本、世界の教会としてのレベルにと実に様々です。皆が、どこにでも積極的に参加していくことによって、共同体は、福音宣教する共同体になっていきます。

3・今後の共同宣教司牧を更に推進するために

①司祭団のチームワーク、リーダーシップ、賜物の共有

共同宣教司牧では、一人の主任司祭が派遣された共同体に対して責任を負うのではなく、一つのブロックという共同体に複数で任命された司祭団がチームとして責任を負うので、司祭団の一致したチームワークが必要です。特に共同宣教司牧に対する取り組みが弱い地域においては、司祭団がお互いに違う賜物を認め合い生かし合って、司牧者としてのリーダーシップを發揮しましょう。

②意識改革と成長のための「信徒の養成プログラム」

現代社会に生き、また社会に派遣されるキリスト者として、「信仰とは何か」、「福音とは何か」、「教会とは何か」、「洗礼の意味とは何か」、「信徒の役割は何か」など、共同体における信仰の根本的学習が必要です。信徒養成は、なによりも信仰の意識改革です。これが次世代の教会のリーダーを生み出し、信仰が伝承されていく基本となっていくと思います。今後も地道に、信徒の総合的養成プログラムを作り、実行していきましょう。これらのプログラムは、福音センターによる教区的養成プログラムと、地区協議会、ブロックおよび小教区における自主的な養成プログラムが効果的に計画され、また利用されるように、関係者で配慮してください。

③教会における「識別」

共同体の現状を分析した上で、どこに問題があり、どのように

刷新すれば、より福音宣教共同体となつていけるかというプロセスの中で、この「識別」が行われます。教会における識別は、把握した現実を聖靈の照らしを受けて変えて行こうと行動に移すとき、歩むべき方向を選び、判断して行くことを意味します。共同宣教司牧の推進のために、この教会的な識別を共同体の「意思決定」で実践していきましょう。

④共同宣教司牧的な「共有」の精神

共同宣教司牧では、個々の信徒の意識と活動が福音的な協力と奉仕の精神で、共同体全体と有機的に繋がっていることが大切です。「カトリック〇〇教会」という名の共同体とその構成員である信徒一人ひとりが派遣されている所は、どこであっても福音宣教の現場です。従つて宣教活動の報告（共有）と共同体による評価・識別が、ますます重要になっていきます。これまで、個人の信仰と活動に依存し、共同体の信仰を意識しなかつた私たちですが、今後は各自の活動も共同体による福音的識別によって見直していきましょう。

⑤新しい福音宣教活動の開発

この現代社会に生きる私たちは、現代社会に適った福音宣教の動機と手段を持つているでしょうか。経済優先の社会の中で、先行きのない不安感・閉塞感を持ち、明日にでも生活の基盤が失われるかもしれないという現状において、私たちは神からいのちを与えられこの世に生まれ、生活の中で福音化された喜びを持ち、恵みとしての信仰を他の人々に有形・無形を問わずに伝えたいといふ動機を持っているのでしょうか。新しい宣教活動の開発は新しい宣教手段・方法に留まらず、自分自身の新しい生き方（回心）という点から始まるのではないかと思います。人々の幸せと社会全体を福音化していく目的のために、より福音的な目で具体的な宣教活動を模索していきましょう。

⑥滞日外国人との共同体づくり

教会が神の国の福音的であるという点から考えて、教会においては本質的に「外国人」は存在しないのです。国籍が異なつ

ても同じカトリック信仰を生きる者同士が、いかに福音的識別を共有し合い、共に派遣していくことができるかという挑戦の中に、神の民として終末にむかって歩む現代教会の姿が現れていると思います。滞日外国人の信徒とともに交流し多文化共生の社会づくりに挑戦しましょう。

⑦信仰共同体の体験

今年の年頭書簡でも述べているように、自己の信仰を守るためにの教会との関わりであった共同体から、人々の喜びや苦しみ、気づきや痛みを皆で共有していくプロセスを踏むことによって、共同体の中で神によって自分自身が変革され相互に成長していく共同体へと変わっていきましょう。この信仰共同体の体験は、小教区の垣根を越えて、ブロックという地域に広がった共同体での体験を目指しています。共同宣教司牧を推進しながら、それぞれのブロックが教会の外に開かれた「社会と共に歩む教会」として、地域社会に力強く福音宣教する共同体へと成長していきますように。

感謝のことば

昨年のブロック訪問で多くの信徒や修道者の皆さんと司祭団が、共同宣教司牧に「挑戦する」という呼びかけに、心から応えてくださっていることを実感しました。そして、多くのことを学びました。苦労や失敗での葛藤、また協力や成功での喜びを味わいながら、愛する教会のためになんとかこの共同宣教司牧という動きに取り組んで頑張っている姿に感動しました。今年もブロックの司教訪問を行っています。特にテーマは、「信仰教育を一緒に考えよう」にいたしました。信仰を次世代に伝える大切な使命を再確認し、信仰教育また信徒の生涯養成についても考えましょう。ロザリオの年にあたり、聖母マリアの姿を聖書を基にして思い起し、教会の母なるマリアを通して、イエスに福音宣教のための知恵と勇気を祈りましょう。

「滞日外国人とともに歩む」 養成コース

去る五月四～五日、津市の三重県カトリック研宗館で京都教区国際協力委員会主催の「滞日外国人とともに歩む」養成コースを、福音センターの協力を得て行いました。国際協力委員会の研修会は二年前にも行われましたが、一般信徒の方に広く呼びかけて行う研修会はこれが最初です。急な募集にも関わらず、三重県を中心に、奈良・京都も含め二十名近くの方が申し込んでくださいました。

体験を分かち合う

最初のプログラムは福音センターの担当です。自己紹介の後、四つのカテゴリーに分けて自分の体験を紙に書き、それをもとにグループで分かち合いました。なぜこんなことが必要なのか？という反応もありましたが、次第に話し合いは盛り上がり、時間が足りないくらいでした。そこで夕食後、全体で集まって分かち合いの続きを进行了。

外国人の「友達」になる



国際協力委員会

二日目の午前中は国際協力委員会の担当で、「京都教区の滞日外国人の現状」と「外国人とどのような関わるか」について説明し、質問に答える時間としました（写真上）。参加者の方が「国際協力」という言葉は必要がない、協力するのではなく交わるのだ、とおっしゃいましたがまさにその通りです。「何をしたらいいのか」を考える前に外国人と友達になり、コミュニケーションを深めることを通して、滞

日外国人の方々が何に困っているか、何を必要としているかがわかるはずです。小教区共同体においても、そこから滞日外国人への対応

が始まつていくのだ、ということを確認しました。

「いない」ではなく「知らない」

地域全体を見る必要性があるということです。

派遣のミサ

二日間のプログラムはミサで締めくされました。ミサの中でハーメル神父がペルー山岳民族に伝わる派遣の祝福を行いました（写真中）。香をたき、一人一人の頭上にかざして祝福するのです。二日そのことにショックを受けた教会ではブラジル人の集まるところに案内を置き、ポルトガル語のミサを始めた」という体験を分かち合つてくださいました。地域によって異なるでしょうが、多くの場合、外国人は「いない」「来ない」ではなく「教会を知らない」のです。教会に来ている人だけでなく、

ご参加ください。

(柳本昭)

2003年 教会学校リーダー研修会 お知らせ＆ご案内（5月25日現在）

〈お知らせ〉

「2003年 ブロック司教訪問 趣意書」中に予告されました「教会学校担当者の研修会」がいよいよ開催される運びとなりました。子どもの信仰教育指導が、教会の未来に直接つながる、大切な使徒職であることに異論の余地はないでしょう。そして、教会学校における信仰教育には、その同じ役割が期待されていることも皆が知っています。

しかし、子どもを取り巻く様々な環境は大きく変化しています。そのため教会学校リーダーたちの負担は増える一方です。この度の研修会では、教会学校リーダーの養成とともに、意見交換や激励の場も設けています。それは、力を合わせて、新しい時代の教会学校を目指すためです。

各小教区におかれましては、参加者の派遣とご支援を宜しくお願ひいたします。

（開催までの経緯）

- 2002. 7. 16 : 信仰教育委員会例会において、「教会学校担当者協力信徒チーム」を組織
- 9. 5 : 「上記チーム」、小教区教会学校活動を支援する企画に取り組むことを確認
- 10. 31 : 「上記チーム」、教会学校リーダー合宿を企画し、実施することを検討
- 11. 21 : 上記合宿目的を研修とし、講演会、分科会、交流会を内容とすることを決定
- 12. 5 : 上記研修会準備のため、アンケートを実施（教区本部事務局から発送 12.14）
- 2003. 2. 6 : 「ブロック司教訪問」と連携し、協力することを確認（司教「趣意書」発表 2.10）
- 3. 13 : アンケートの集計と評価を終え「チーム」は解散、「実行委員会」が発足
- 4. 6 : 「第1回実行委員会」において、研修会基本日程を審議し決定、役割を分担
- 4. 21 : 信仰教育委員会教会学校部門担当司祭（三宅秀和）の任命
- 5. 3 : 研修会講師を受諾された大阪教区司祭 比企 潔師との打合せ（於、布施教会）
- 5. 11 : 「第2回実行委員会」において、研修会実施要領と参加者募集要項を検討
- 6. 14 : 「第3回実行委員会」の折、研修会場を下見し、会場設備計画を検討（予定）
- 7. : 「第4回実行委員会」の折、グループ分け、食事や宿舎手配を検討（予定）

〈ご案内〉

（教会学校リーダー研修会実施要領）

- 目 的** 1. 教会学校リーダーの養成と激励を行う
2. 研修参加者どうしの分かちあいと情報交換を行う
3. これからの協力体制について意見交換を行う

日 程 2003年8月26日（火）、27日（水）、28日（木）

全日程参加、あるいは部分日程参加のいずれも可能です。

部分参加の場合、受付から夕食交流会までの参加を基本とします。

3日目の参加は自由です。

会 場 唐崎メリノールハウス 滋賀県大津市唐崎1-4-1

（JR湖西線 唐崎駅下車東へ徒歩8分、国道161号線沿い湖畔）

参加費用 基本参加費3,000円+食費(@1,000円×回数)

計算例: 全日程参加の場合 3,000円+1,000円×6回=9,000円

2日目のみの参加 3,000円+1,000円×2回=5,000円

参加資格 現在、教会学校で子どもの信仰教育にたずさわっている信徒、およびその候補者

カトリックスクウト活動にたずさわっている信徒、およびその候補者

カトリック小学校において、信仰教育にたずさわっている教職員の方々

備考 会場は駐車可能です。

参加者のための無料宿舎手配(メリノールハウス、唐崎小教区、大津小教区の宿泊施設)、および研修参加者が同伴される児童生徒のお世話をいたします ご遠慮なくお申し出ください。

研修概要

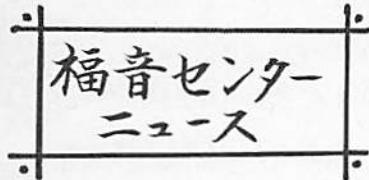
	8月26日(火)	8月27日(水)	8月28日(木)
8:00		朝 食	朝 食
9:00		朝の祈り	朝の祈り
10:00		受付開始・諸注意	ミサの準備
10:30		『パネルディスカッション 第1部』 (パネラー: 大塚司教 比企神父、光吉氏)	「典礼をとおしての信 仰教育」
12:30		昼食・休憩	『こどもとともにささ げるミサ』
13:00	受付開始・諸注意	(質問票の整理)	昼 食
14:00	開会宣言・祈り	『パネルディスカッション 第2部』	閉会宣言・祈り
14:30	『グループディスカッショ ン』 (教会学校の運営につ いて)	(パネラーおよび参加 者からの質疑応答)	解 散
17:00	夕べの交わり	夕べの交わり	
18:00	夕食 交流会	夕食 交流会	
20:00	教材研究 分かちあい 情報交換	教材研究 分かちあい 情報交換	
22:00	晩の祈り	晩の祈り	
23:00	消 灯	消 灯	

(参加申し込みおよび問い合わせ先)

参加申し込み 原則として、各小教区担当者をとおしてお申し込みください

問い合わせ先 担当司祭 三宅秀和(カトリック大津教会司祭館)

T&F: 077-522-3987 /携: 090-2389-5097 / E-mail: VZB14771@nifty.ne.jp



キリストの体に変えられた 共同体として



ひとつひとつの粘土は捧げられた「わたし」

3月22日に福音センター主催で行われた「ミサがめざしている体験」（諏訪栄次郎神父・大阪教区）には60名余りの人人が参加。ミサ典礼のもつ深い意味を「体験」し、味わう貴重な機会となりました。以下は参加者の感想文です。

☆ いま京都教区では、「信仰共同体を体験しよう」というテーマに取り組んでいますが、実際に共同体の一一致はとてもむずかしいように思われます。しかもどうすれば一致できるのか指導してくれる人はいませんでした。

ところが、ミサがめざす深い意味を諏訪師からうかがい、そして体験し、目が覚める思いでした。今までホスピタリティに込められるべき自分の姿をよく知らないまま、無造作にホスピタリティを入れていました。しかし研修会では、ミサの中で神に捧げるパンを、実際に自分達で作る作業を体験しました。参加者の各人が粘土をこね、それぞれありのままの自分を祈りに込めながらパンを作りました。「自分は別に強くなる必要はないし、傷つくまいと必死に自分の周りに壁を築く必要もない。なぜなら、わたしの弱さは他人の賜物による助けが必要だし、他人の弱さは私の賜物の助けが必要なのだから」という引用の言葉を聞きながら粘土をこねました。60数個のパンが出来あがり、祭壇に捧げられました。どれ一つ同じ形のものはありません。異なった形のパンを見て、自分の作ったパンと違うと言って怒る人は誰もいません。祭壇に奉納されたパンは、もうわたし個人ではなく、一つの共同体の姿となって捧げられたものだからです。

そして聖変化によって、わたしたち共同体はキ

リストの体と血と一つになるのです。

そのご聖体を、またわたしたちがいただくのです。キリストと総ての兄弟姉妹が一つになって、わたしたちの体に入ってくるのです。

諏訪師は力を込めて言いました。「神があなたがたの心の中に、いまあなたのうちに生きている。だから、あなた自身がご聖ひつにならなければならぬのです」と。

(唐崎教会 岩崎章太郎)



☆ わたしたちは、自分のもっている傷を受け入れることができて初めて、傷ついている他人を思いやることができるようになりました。あるがままの自分でよいのです。わたしの弱さは他人の助けを必要とし、またその反対でもあるのですから。これは大きな発見でした。なぜならそれは、わたしたち一人ひとりが共同体という一つのからだを構成していること、すなわち、多様な贈り物をもった人間が、同じ一つのからだを形造っていることを再確認させるからです。

(宇治教会 山口幸恵)



年間第14主日

人々の信仰に驚かれた (マルコ 6・1~16)

右ページに掲載した、「ミサがめざしている体験」の参加者の声を読まれた方は、お二人がほぼ同じような感想をもっておられるのに気づかれたことでしょう。ミサの奉獻は、傷も弱さももったありのままの自分を捧げるということに、お二人ともあらためて深い感銘を受けておられます。

キリストを着るために

わたしたちは本来とても弱く、傷つきやすいものです。「神の似姿」に創られたとはいえ、蛇の誘惑に負けて楽園を出た後は、創られたままの姿をもはやとどめてはいません。そしてわたしたちはみんなそのことにうすうす気づいているのです。そこから色々な営みが始まります。お金、権威、名声…などにしろ楽園から裸で出てきたものですから、色々なもので身を包まなければ寒くてしかたありません。そしていつしか身をつつんでいるものが、その人そのものとなってしまいます。

けれどイエスはわたしたちが裸でしかないことをよくごぞんじです。イエスの望みはご自分でわたしたちを飾ってくださること、わたしたちがキリストを着る(ロマ13・14)ことです。キリストを着るにはそのままの自分を主に差し出さなければなりません。するとわたしたちの貧しさは、「キリストの力がわたしの内に宿る」(IIコリント12・9)幸いなものとなり、貧しくとどまるることは、キリストの力に全幅の信頼をおくことにつながります。

イエスの真の姿を求めて

今日のマルコ福音書に登場するナザレの人々は、ついにイエスの真の姿を認めるにはいたりませんでした。自分の貧しさの底にまで降りていかなければイエスの姿は見えてこないのでしょう。そこには奇跡がおこる余地はありません。奇跡も秘跡もわたしたちの信仰が前提です。弱いままでのわたしたちがキリストの力によって変えられるという信仰に、主は応えられます。



こんにちはシスター

ショファイユの幼きイエズス修道会 衣笠修道院

(写真後列左から)

Sr松永、Sr岩村、前列Sr北野、Sr
浦川、Sr竹口



衣笠修道院は、時報の五月号に紹介されました児童養護施設京都聖嬰会の運営と奉仕を主な任務とされています。大浦天主堂において日本信徒を発見されたプティジャソ司教により招聘され、明治十年にショファイユの幼きイエズス修道会修道女四名がフランスより長崎を経由して神戸に上陸し、養育事業を開始しました。その後、明治十九年に京都市中京区六角通り烏丸において孤児養育が始められました。孤児五十二名に達し二十一

三条に移り、昭和三十七年現在の衣笠へ移転しました。Sr松永とSr浦川は、修道院内の仕事と神様の愛を伝える教会活動のお手伝いをしています。Sr北野、Sr岩村、Sr竹口は聖嬰会に勤務しています。現在施設では、二歳から十八歳までの五十数名の子供たちと二十四時間起居を共にしています。何らかの事情のため、親と生活できない子供たちが、心身ともに健康で自立した人間として、社会に果立ってくれることを願っています。

創立者「レース・アンティエ」の「一つの心、一つの魂」をモットーに、援助を必要としている人々の中に、幼子イエスを見、「ありのままの一人ひとりを受け入れ、その存在を受け入れ、その存在を尊び、愛する心」をすべての援助の原点として活動しています。

修道院（児童養護施設京都聖嬰会と同居）は、京都の西北に位置し、金閣寺の北隣り、左大文字の上り口です。上には女子カルメル会、衣笠墓苑もあります。緑の木々や鳥の鳴き声が身近に感じられる自然に囲まれた、空気の澄んだ美しい所です。是非一度おいでくださいませ。

一年現在信愛幼稚園のある河原町三条に移り、昭和三十七年現在の衣笠へ移転しました。Sr松永とSr浦川は、修道院内の仕事と神様の愛を伝える教会活動のお手伝いをしています。Sr北野、Sr岩村、Sr竹口は聖嬰会に勤務しています。現在施設では、二歳から十八歳までの五十数名の子供たちと二十四時間起居を共にしています。何らかの事情のため、親と生活できない子供たちが、心身ともに健康で自立した人間として、社会に果立ってくれることを願っています。

今は合宿のプログラムをできるだけ高校生自身に任せることで、二週間前に青年センターで準備会を開いた。なぜ合宿を催すかといふ話し合いから始まり、楽しんで参加でき、信仰を含ませることを定めた。学校に通う日常生活の中では、キリスト者と関わる機会がほとんどないが、合宿では、大半の人がカトリック信者であるため、リラックスして信仰に対する悩み、疑問などについて話し合えるよう充実したスケジュールとなつた。

教区の聖香油のミサに参加した三日間は、司祭と高校生ができるだけ信仰を考える時間を過ごした。また瀬戸神父の指導で、アシジの聖フランシスコの「平和の祈り」と、セバスチアン・テンブルの歌を通して平和について共に話し合い、考えさせられた。

遊ぶ時間のゆとりもあり、近くにある銭湯でのんびりしたり、ちょっと変わった形のバドミントンとサッカーをやって樂しだ。(K・タロク)

京都教区 春合宿

京都教区高校生会の合宿は、三月二十七日～二十九日メリノールハウスで行われ、洗礼を受けていない二人を合わせて、十六人参加した。



自己紹介をした後、話題はすぐに食事のことになった。「人はバトンだけで生きるものではない」という申命記や、イエスの言葉を聞

夏のキャンプ情報

青少年委員会

として参加 テーマ 「自然を通して、友達を通して、生活中で神様を感じ分ち合おう」 内容 野外活動、キャンプファイヤー、ボランティア活動

奈良地区

◆河原町教会土曜学校練成会 8月7日(木)~9日(土) 場所 城陽市青少年野外活動センター(友愛の丘キャンプ場) 対象 小中学生 内容 京都府日吉青少年山の家 小学校二年生~六年生

長岡教会夏のキャンプ 9月13日(土)~14日(日) 場所 城陽

◆日比合作オペラ「高山右近」 8月1日(金)~3日(日) 場所 山国教会 対象 小中学生 内容 国教会 対象 小中学生 テーマ 自然を楽しもう 内容 教会周辺の森や川遊び、バーベキューなど

教区中学生広島平和巡礼 8月5日(火)~7日(木)

中学生夏の合宿 8月18日(月)~20日(水) 場所 つるのハウ

テーマ「勇気」 問合せ 柳

本師、福岡師または青年センターまで

高校生夏の合宿 8月4日(月)

6日(水) 場所 網野教会

問合せ タロク師、瀬戸師または青年センターまで

草津教会夏期学校 7月19日(土)~20日(日) 場所 草津教会

対象 幼稚園から六年生まで。晴天の場合川へ泳ぎに行きます。

侍者キャンプ 7月29日(火)~31日(木) 場所 唐崎メリノールハウス

テーマ「イコン」

湖西ブロック夏季教会合宿 8月1日(金)~3日(日) 場所 葛川少年自然の家、安曇川教会

対象 幼児、小学生、中学生(児は保護者同伴)

高校生はリーダー

京都南部地区

京都北部地区

滋賀地区

奈良地区

河原町教会土曜学校練成会

宮津ブロック小学生キャンプ

宮津ブロック中高生キャンプ

宮津ブロック中高生キャンプ

トール修道会

南ブロック教会学校合同キャンプ

宮津ブロック小学生キャンプ

宮津ブロック中高生キャンプ

南ブロック教会学校合同キャンプ

宮津ブロック中高生キャンプ

トール修道会

南ブロック教会学校合同キャンプ

トール修道会

西陣教会

西陣教会

20日(日)~21日(月) 場所 山国教会 対象 小中学生 内容 国教会 対象 小中学生 テーマ 自然を楽しもう 内容 教会周辺の森や川遊び、バーベキューなど

日比合作オペラ「高山右近」 8月1日(金)~3日(日) 場所 山右近生誕四百五十年を記念して、公演が行われます。

トルドム女子大学ユニソン会館で公演

◆日比合作オペラ「高山右近」 8月1日(金)~3日(日) 場所 山右近生誕四百五十年を記念して、公演が行われます。

トルドム女子大学ユニソン会館で公演

フィリピン移民百年、高山右近生誕四百五十年を記念して、公演が行われます。

主催は日比合作オペラ「高

山右近」京都公演実行委員会

(委員長ルカ・ホルステイン

ク神父)です。

入場券は前売り大人一千五百円、小、中、高校生、大学生は一千円、当日一律三千円です。

問合せは、ルカ・ホルステインク神父(フランシスコの家

中中原道夫(聖母教育文化センター) 075(822)2369、

プラザ 京都075(743)23

20)、山並るり子(オペラ

3618)まで。

お
知
ら
せ

福音センターから

◆結婚講座 12日(土)、19日(土)、
26日(土) いずれも10時半～15時

教区委員会から

◆聖書委員会▼聖書深読 12日(土)

10時 新井延和師 場所 河原町
会館六階 費用二千五百円(昼食
代を含む)、持参品 聖書・筆記
用具・ノート(お申込みは三日前
までに) ▼聖書講座シリーズ「マ
ルコ福音書を読む」イエス・キリ
ストの秘密――2・3日西 経一
師、9・10日森 一弘司教 16・
17日沼野尚美氏 23・24日大塚喜
直司教

◆京都女子カルメル会修道院▼カ
ルメル山のミサ 16日(水) 15時
中川博道師

◆ヌヴェール愛徳修道会ルルド修
道院▼6月1日再開されました。

〒612-0878 京都市伏見区
深草田谷町3 電話 075-(64
4) 0625

地区協議会から

◆滋賀カトリック協議会▼典礼研
修会「集会祭儀のすすめ方」12日
(土) 10時～16時メリノールハウ
ス。滋賀カトリック協議会主催

講師 奥村豊師 申込は滋賀県各
小教区会長へ

◆奈良カトリック協議会▼例会20
日(日) 14時 大和郡山教会▼聖
書講座 11・12日「主の祈り」を生
きる共同体(その2)講師 松本
秀友師、25・26日(その3)講師
松本秀友師 問合せ Eメール
narac21@hotmail.com ▼正義

◆典礼委員会▼主日のミサと聖体
贊美式第一日曜日17時半 河原町
教会▼主日のミサと晩の祈り第三
土曜日16時半 衣笠カルメル修道
会。

修道会から

◆聖ドミニコ女子修道会▼みこと
ばを聴こう! 「みことばとシェナ
の聖カタリナ」――わが娘よ、わた
しの摂理の熱愛者となれ。――12
日(土) 14時 場所 聖ドミニコ

女子修道会京都修道院 対象 青
年男女 会費三百円(プリント代)
申込み締切 6日(日) シスター
安達まで075-(222)2557

年男女 会費三百円(プリント代)
申込み締切 6日(日) シスター
安達まで075-(222)2557

◆京都女子カルメル会修道院▼カ
ルメル山のミサ 16日(水) 15時
中川博道師

◆ヌヴェール愛徳修道会ルルド修
道院▼6月1日再開されました。

〒612-0878 京都市伏見区
深草田谷町3 電話 075-(64
4) 0625

◆滋賀カトリック協議会▼典礼研
修会「集会祭儀のすすめ方」12日
(土) 10時～16時メリノールハウ
ス。滋賀カトリック協議会主催

講師 奥村豊師 申込は滋賀県各
小教区会長へ

◆奈良カトリック協議会▼例会20
日(日) 14時 大和郡山教会▼聖
書講座 11・12日「主の祈り」を生
きる共同体(その2)講師 松本
秀友師、25・26日(その3)講師
松本秀友師 問合せ Eメール
narac21@hotmail.com ▼正義

◆聖ドミニコ女子修道会▼みこと
ばを聴こう! 「みことばとシェナ
の聖カタリナ」――わが娘よ、わた
しの摂理の熱愛者となれ。――12
日(土) 14時 場所 聖ドミニコ

Q 栄唱を唱えるとき頭を下
げるのでですか。

A 心で典礼に参加する意味を持
っています。頭を下げるなら何

るという感覚はいただけませ
ん。栄唱のときの動作をどう
するかではなくて、「父、子、
聖靈」の名に敬意を表すので
はないでしょうか。○○のと
き××の動作をするのかどう
かという質問が非常に多いの
ですが、その動作を何を思つ
て行つているのか。少々神經
質な言い方がもしかませんが、
信仰生活の中で行つている動
作の意味合いを一つ一つチエッ
クしてみてください。もし、
分からずに行つているものが
あれば司祭に尋ねてみてくだ
さい。ことはど思いと動作が
一致したとき、祈りにも深み
が出てくるでしょう。

Q 聖堂を出るとき聖水に手
を浸して十字を切る方、聖水
は使わずに十字を切る方、頭
を下げるだけの方、いろいろ
おられます。決まってい
ないのですか。

A これも何を思つてそうし
ているのかが問われます。聖
堂に入るときに聖水で十字を
切るのは、洗礼を受けたとき
のことを思いこし、新たに

Q 集会司式者、聖体奉仕者、
侍者などは女性はしないので
すか。

A 教会の典礼での信徒の奉
仕者には男性でも女性でもか
まいません。教区の聖体奉仕
者・集会司式者の学習会には、
男女とも参加しております
し、子供の侍者合宿や、聖香
油(ミサでは男の子も女の子の子も
活躍しています)。女性が典礼
の奉仕をできないという考え
方はもはやいたしません。歴
史的な経緯や習慣によつて、
教会では女性に対する差別的
扱いがなされてきたと思われ
ますが、これは社会全体にい
ふることで、いまだに払拭さ
れているとはいえないでしょ
う。少なくとも典礼の面では
少ししつしつそれが改められてき
ているということでしょう。

Q 聖堂を出るとき聖水に手
を浸して十字を切る方、聖水
は使わずに十字を切る方、頭
を下げるだけの方、いろいろ
おられます。決まってい
ないのですか。

A これも何を思つてそうし
ているのかが問われます。聖
堂に入るときに聖水で十字を
切るのは、洗礼を受けたとき
のことを思いこし、新たに

Q 聖堂を出るとき聖水に手
を浸して十字を切る方、聖水
は使わずに十字を切る方、頭
を下げるだけの方、いろいろ
おられます。決まってい
ないのですか。

A これも何を思つてそうし
ているのかが問われます。聖
堂に入るときに聖水で十字を
切るのは、洗礼を受けたとき
のことを思いこし、新たに

典礼委員会 奥村 豊

プロック・小教区から

◆京都南部地区東プロック▼平和
旬間行事 8月10日(日) 15時平和
祈願ミサ 17時平和行進 場所
河原町教会

教育関係施設から

◆暁星女子高等学校▼学校祭12日
(土) ~13日(日)

◆聖母教育文化センター▼日曜巡
礼の旅 公開講演会「かくれキリ
シタンの今」—オラショを聴く—
13日(日) 13時半 場所 聖母教
育文化センター 講師 三俣俊二

名譽教授▼聖書講座 4日(金)、
11日(金) いずれも9時半、14日
(月) 19時▼その他開講講座 ロ
シア語と文化

諸施設・諸活動から

◆JOC▼働いている青年の集い
京都働く人の家(九条教会前)、
滋賀働く人の家(大津教会裏)問
合せ090-(8207)-1831

◆京都カナの会▼結婚相談室・例
会6日(日) 13時半 河原町会館
◆京都カトリック混声合唱団▼練
習日13日(日) 14時、26日(土)
19時 河原町会館六階

◆京都キリスト研究会▼定例会

「心のともしび」の放映再開
KBS京都テレビで「心の
ともしび」の放映が再開され
ます。

七月六日より、毎週日曜日
の朝六時から六時十五分まで
の番組です。どうぞご覧になっ
てください。

◆「一万匹の蟻運動」基金報告
累計三八、〇八一、八〇四円

(五月十二日現在)

27日(日) 14時 河原町会館六階
ホール

◆コーエレステ▼練習第2、

第4、第5木曜日10時~12時 河
原町会館六階ホール

◆在世フランシスコ会▼京都兄弟
会19日(土) 13時半 フランシス
コの家

◆聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ
会▼河原町協議会・京都中央理事
会合同13日(日) 13時半 河原町
教会

◆二金会▼7月・8月はお休み
日(日) 河原町会館六階

◆糠みその会▼例会31日(木) 19
時45分 九条教会ホール

◆レジオ・マリエ▼コミチウム20
日(日) 河原町会館六階

◆「一万匹の蟻運動」基金報告
累計三八、〇八一、八〇四円

らしい遊び場。

『学校やすんでとうさんと』
『おとこどうしのおるすばん』
『こんにやろとうちゃん』

梅田俊作・佳子 作・絵
(岩崎書店)

二人の数多くの合作絵本の中
から、父と子のほのぼのとした
交流を描く三冊を読んで下
さい。

『学校やすんでとうさんと』

は、ゲーム機がほしいほしいと
思って家に帰ると一万円落ちて
いた。「これでゲーム機が買え
る」と。買いはしたが、ゲーム

やってもおもしろくない。どう
とうソがばれてしまう。でも
お父さんは何も言わない。

お父さんは、僕に学校を一日
休ませ自分も会社を休んで、二

人で庭の草取りや、公園の掃除
や、川のどぶ掃除をする。

ぼくの心にあついものがこみ
上げてくる。「ごめんなさい、

とうさん、ぼくは、ぼくは……」
と声にならない。その時父さん

は言った。「うん、そのいまの
気持ちを忘れずにはいような」

そしてぼくたちはぶらぶらとホ
タル探しに出かけた。

良心の呵責に悩む子どもに、
父はとがめるより、ゲーム遊び

よりもっとすばらしい遊びが
あることを教える。自然は素晴

良書紹介

『おとこどうしのおるすばん』

『おとこどうしのおるすばん』

『こんにやろとうちゃん』

『おとこどうしのおるすばん』

『お父さんとぼくのおとこどう
しのおるすばん。オニノ イヌ
マニなんとやら。』

『つい度がすぎてそそうしゃつ
た。お母さんたちが帰らないよう
に見つからないように……』

『こんなのがびのびした父と子の
ところだしどものゆるせるぞ。』

『今日は、みんなで海に行くは
ずだった。ところがとうちゃん、
会社の都合で急に行けないと
いだした。「うそつき。うそつ
きはどうぼうのはじまりだぞ。』

『公園でキャンプごっこをして
きたかったんだぞ』、「ぼくはうみへい
てそうだぞ。互いに言い合つ
てもおさまらない。』

『木かげでかあちゃんが呼んで
いる。おべんとうにしましよう
よ。』

『こんにやろこんにやろ。海、
ぜつたいにあきらめないぞ。ぼ
くはおにぎりにむしゃぶりつい
た。』

大塚司教の

7月のスケジュール

2日(水)	中央協機構改革委員会
15時	
3日(木)	中央協常任司教委員会
10時	
6日(日)	司教ブロック訪問(東
10日(木)	司祭評議会14時
11日(金)	大阪教会管区教区代表者会議11時
12日(土)	福音センター 結婚講座13時半
13日(日)	司教ブロック訪問(衣笠教会)
17日(木)～18日(金)	司教顧問会・責任役員会
司祭評議会常任委員会	
合同会議	
20日(日)	司教ブロック訪問(草津教会)
23日(水)	聖書講座(河原町)19時半
24日(木)	聖書講座(河原町)10時
27日(日)	青少年担当司祭交流会
18時	

編集部から

教区世界青年の日の集い

◆お詫びと訂正 307号(6月号)9ページこんにちはシスター(写真右から)の中で、シスター松野が、間違ってシスター松尾となっていました。

お詫びして訂正いたします。

◆先月号に掲載しました「社会と共に歩む教会」実例のリストの続きを今月号に掲載する予定でしたが、今月号には掲載出来ませんでいたので、来月号以降、順次掲載します。実例の追加報告があります。実例の追加報告がありましたが、今月号には掲載出来ませんでいたので、来月号以降、順次掲載します。

◆お知らせに載せたい情報は、9月号でしたら7月14日までに、10月号でしたら8月18日までに、京都教区本部事務局内「京都教区時報」宛にFAXか、またはEメール henshu@kyoto.catholic.jp でお願いします。

(ジャン・バニエ)
多くの障害を負った人々との共同体の創立者。表紙の言葉はジャン・バニエ著『ひとつなるために』日本基督教団出版局一九九一年二一一〇一二二頁からの引用です。

青年センターあんてな

去る四月十三日河原町教会地下ホールにて第二回教区世界青年の日の集いが開催されました。「あなたは私を愛しているか」をテーマに、福音書にあるペトロのイエスへの裏切りから赦しに至るまでの過程をミサの中で体験するという内容でした。日常生活の中で自分の行った過ちに対しイエスならどう赦すか、ということを考えました。イエスはすべてを赦してくれることで、その赦しを自分自身で考えるというのは、はつきりといってチンパンカンパン? そう思った参加者もいたかもしれません。しかし日ごろの自分の行いに対し、目をそむけてしまって、そのままに忘れてしまいたいこと、これらのことを見つめながら書くことによって過ちに対しても良い機会であったのではないかと思います。今回のミサの中で正面から向き合い見つめなおすことが、このことを紙に書くことによって過ちに対しても良い機会であったのではないかと思います。今回もミサの中で「赦し」ということがどういうことなのかを色々と考えさせられました。今までゆるすということが過ちや罪を帳消しにすることのように考えていました。嫌

なことや辛いことは忘れ去ってしまって、時間が解決してくれるだろうと思っていたけれどそうではなく、罪を受け入れ受けとめた上で、人間として大きくなっているのではないかと思うようになりました。自分の罪に向かって逃げ出したいくなることは時には逃げ出したいですが、苦しいときもあります。苦しいときもまた、自分の罪を受け入れれる勇気が得られるのではないかと感じました。

ミサ後の交流会では大塚司教とともに語り合い、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。司教が参加者一人一人に声をかけ青年たちとふれあい、なごやかな雰囲気になった後、司教に對しての質問疑問、たわいもないことから司教職についてなど気軽に答えてくださいました。今回の参加者は約四十人。こんなにたくさんの人で盛り上がり、世界青年の日の集いが行われたことを感謝します。

スタッフ 佐藤知行